

新入生のボランティア意識－「新入生ボランティア活動アンケート」から

1. 調査の目的と概要

ボランティアセンターでは、毎年4月新入生オリエンテーションの際に、ボランティア活動に関するアンケートを行ってきている。新入生のボランティアへの意識や活動の意向を明らかにし、センターが取り組むべき課題についての情報とすることを目的としている。2001年度に開始した全新入生を対象としたこの調査は、本年度で9回目を迎えた。年度ごとに多少の見直しはあるものの、基本的には同じ質問内容を踏襲してきている。調査結果は各年度の報告書で公開されているが、その他、外部団体などにもボランティア募集をする際の情報として提供されるなど活用されてきた。

2009年度は、新入生2729名から回答を得ることができた。

調査概要は以下のとおりである。

調査対象者 明治学院大学 2009年度1年生

調査時期 2009年4月1日～3日

調査方法 各学部新入生オリエンテーションでアンケート用紙を配布し、その場で回収した。

調査結果 総数2,729名（男子1,124名（41.2%）、女子1,594名（58.4%）、不明11名）

文学部（英文学科273名、フランス文学科146名、芸術学科148名）

経済学部（経済学科288名、経営学科158名、国際経営学科134名）

社会学部（社会学科248名、社会福祉学科276名）

法学部（法律学科299名、政治学科116名、消費情報環境法学科169名）

国際学部（国際学科281名）

心理学部（心理学科193名）

調査項目

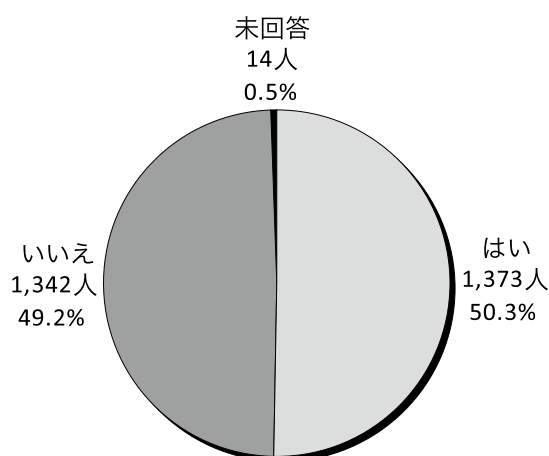
- ・大学入学以前のボランティア活動経験について
- ・大学時代にボランティア活動に参加したいか
- ・関心のある活動領域
- ・ボランティア活動に参加しようと思わない理由
- ・ボランティア活動に対する懸念
- ・ボランティアセンターの認知度など

2. 調査結果

(1) 大学以前のボランティア活動経験について

「これまでにボランティア活動に参加したことがありますか」【図1】という質問に対して、「はい」が50.3%、「いいえ」が49.2%であった。半数の新生は大学入学前に、何らかのボランティア活動に参加経験があるということがわかる。2007年度が48.5%、2008年度は50.3%であり、この数年、半数程度の新生は、高校までの学生生活においてボランティア活動経験者であるという状況となっている。

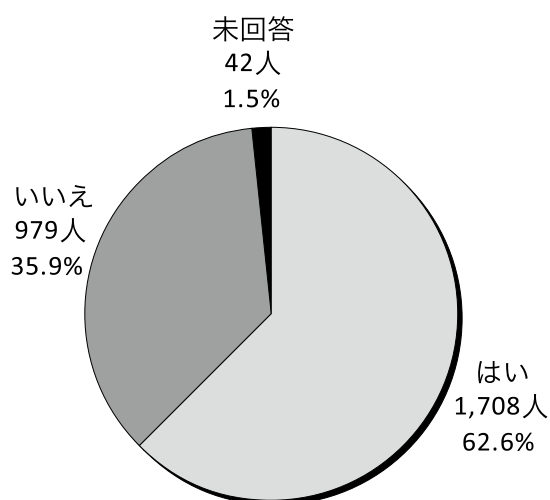
【図1】 これまでにボランティア活動に参加したことはありますか？



(2) 大学時代にボランティア活動に参加したいか

「大学時代にボランティア活動に参加したいとおもいますか」【図2】という質問に対して、「はい」が62.6%、「いいえ」が35.9%だった。「はい」と答えた学生が2007年度56.3%、2008年度61.2%となっており、入学後ボランティア活動への参加希望学生は全体として漸増していることがわかる。

【図2】 大学時代にボランティア活動に参加したいと思いますか？



次に学科別に「大学時代にボランティア活動に参加したい」と回答した学生の割合を示したのが【表1】である。

【表1】大学時代にボランティア活動に参加したいか・学科別（括弧内は08年度）%

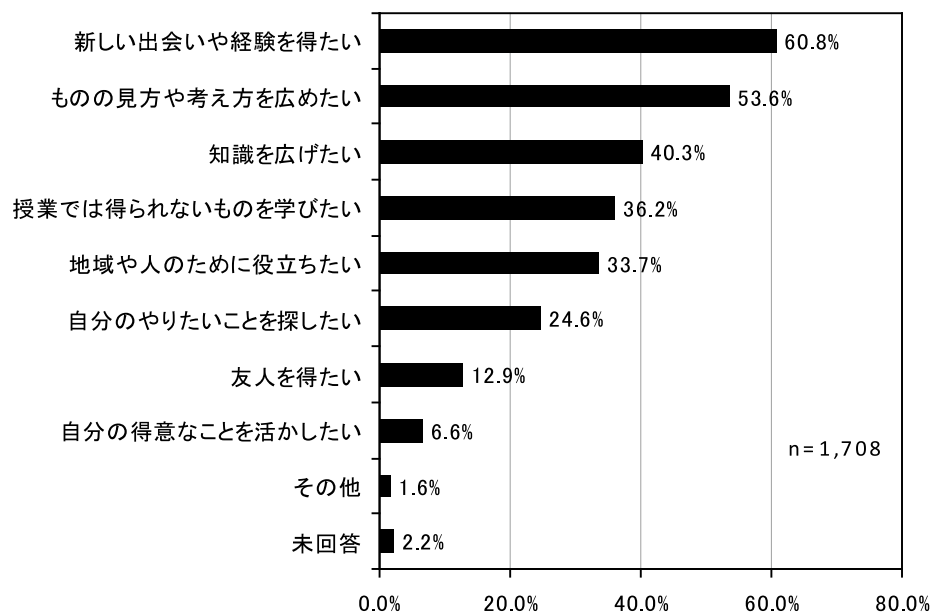
国際学科	84(75.3)	芸術学科	60.8(58.7)
社会福祉学科	82.2(80.2)	社会学科	57.7(56.8)
心理学科	72.5(66.3)	消費情報環境法学科	55.6(55.6)
英文学科	71.4(69.9)	経済学科	50(43.2)
政治学科	67.2(67.4)	法律学科	44.8(45.2)
国際経営学科	63.4(54.1)	経営学科	33.5(44.0)
フランス文学科	61(56.4)		

参加したいとする学生の割合が今年度最も高かったのは、国際学科の84.0%で、例年最も高い割合を示してきた社会福祉学科の82.2%とともに、両学科の学生ともボランティア活動に高い意欲を示している。次に、心理学科が72.5%、英文学科が71.4%と高くなっている。また国際経営学科は、昨年と比べて約1割増えて、63.4%の学生が参加希望を示した。全体的にみると、今年度新入生の半数以上が「大学時代にボランティア活動に参加を希望する」とした学科が13学科中11学科となった。昨年度までと比較すると、学科の格差が縮小し、全学科的にボランティア活動に対して意欲的な新入生が増えている傾向を示しているといえる。

また性別でみると、ボランティア活動参加意欲については、女子学生の73.0%が参加を希望しているのに対して、男子学生は48.0%にとどまっており、ボランティア活動の志向性は女子学生の方が高いことがうかがえる。

「大学時代にボランティア活動に参加したい」と回答した学生に対し、「ボランティア活動に参加したい理由（複数回答）」【図3】を尋ねた。理由として挙げられているのは、「新しい出会いや経験を得たい」（60.8%）「ものの見方や考え方を広めたい」（53.6%）という回答が多かった。ついで、「知識を広げたい」（40.3%）、「授業では得られないものを学びたい」（36.2%）、「地域や人のために役立ちたい」（33.7%）という回答になっている。例年の結果と比較して、理由順位、割合ともほぼ同様な結果であった。これを男女別でみると、「新しい出会いや経験を得たい」「授業では得られないものを学びたい」「ものの見方や考え方を広めたい」という理由をあげた女子学生の割合が高いことがわかる。【表2】

【図3】 ボランティア活動に参加したい理由（複数回答）



【表2】 ボランティア活動に参加したい理由・性別（複数回答）

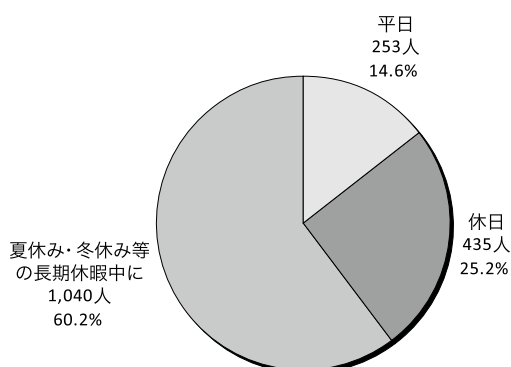
	回答者数	自分のやりたいことを探したい	新しい出会いや経験を得たい	知識を広げたい	授業では得られないものを学びたい	地域や人のために役立ちたい	ものの見方や考え方を広めたい	自分の得意なことを活かしたい	友人を得たい	その他	未回答
全体	1708	421	1038	689	619	575	916	113	220	28	37
	100.0	24.6	60.8	40.3	36.2	33.7	53.6	6.6	12.9	1.6	2.2
男	539	127	269	202	150	158	241	33	69	14	18
	100.0	23.6	49.9	37.5	27.8	29.3	44.7	6.1	12.8	2.6	3.3
女	1163	292	764	483	467	413	670	80	150	13	19
	100.0	25.1	65.7	41.5	40.2	35.5	57.6	6.9	12.9	1.1	1.6
未回答	6	2	5	4	2	4	5	0	1	1	0
	100.0	33.3	83.3	66.7	33.3	66.7	83.3	0.0	16.7	16.7	0.0

次に参加したいと回答した学生に対し、希望するボランティア活動のスタイルを尋ねた。活動日【図4】に関しては、最も多いのが「夏休み、冬休みなどの長期休暇中に」で6割となった。ついで「休日」

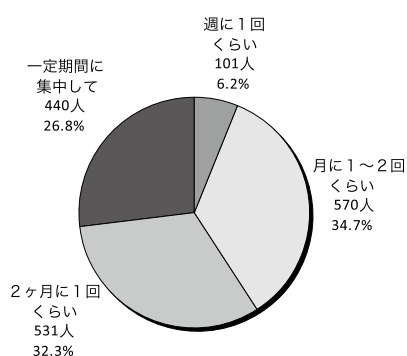
(25.2%)、そして最後に「平日」(14.6%)となっている。これも例年同様の結果であり、時間が十分にとれる長期休暇中に活動に参加したいとする学生が大半であり、「平日」に大学の講義やアルバイトなどと平行して活動を希望する学生は15%弱となっている。一方、センターに寄せられるボランティア情報では、休日などに行われるイベント的なプログラムと同様に、日常生活上での継続的なボランティア活動への要請も多いことから、学生のニーズとのマッチングが課題となると思われる。

頻度【図5】に関しては、「月に1～2回」(34.7%)、「2ヶ月に1回程度」(32.3%)。「一定期間に集中して」(26.8%)となっている。一方で「週に1回くらい」(6.2%)と頻度の高い活動を希望する割合は例年通り低いものとなっている。活動形態【図6】については、「いろいろな活動に挑戦していきたい」(85.6%)が高く、「一つの活動を続けていきたい」(13.3%)に大きく差をつけている。この傾向は昨年度とほぼ同様であり、ここ数年変化はみられない。

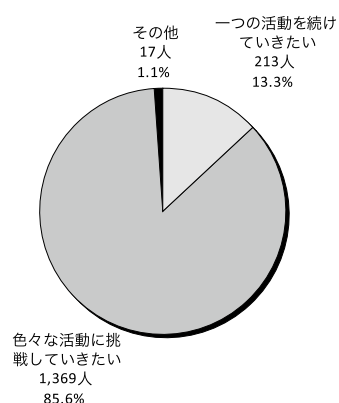
【図4】希望する活動日



【図5】希望する頻度

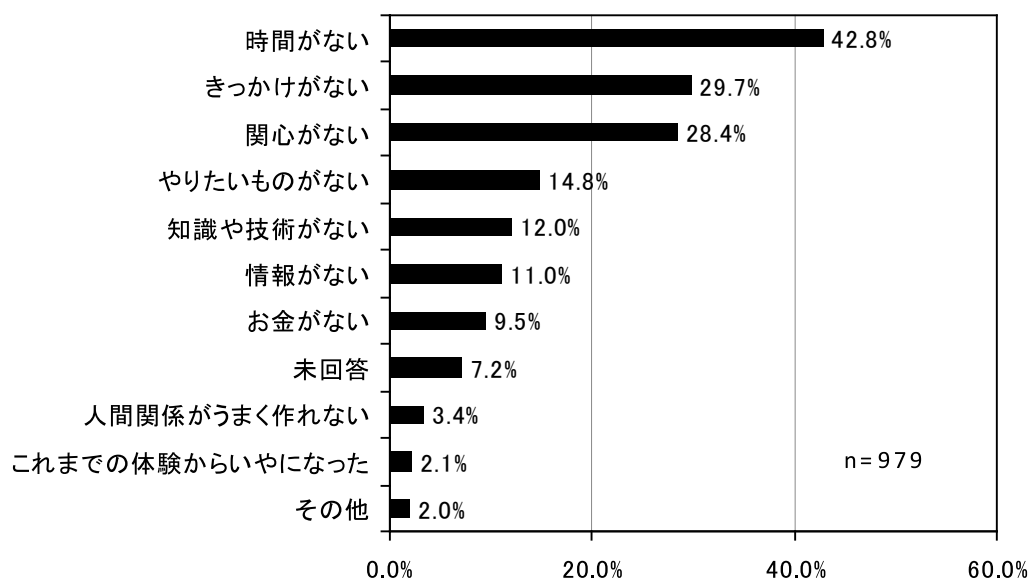


【図6】希望する活動形態



一方、大学時代にボランティア活動に参加したいとは思わないとした学生に対し、その理由を尋ねた【図7】（複数回答）。第一位が「時間がない」（42.8%）第二位「きっかけがない」（29.7%）、第三位「関心がない」（28.4%）だった。ついで「やりたいものがない」（14.8%）、「知識や技術がない」（12.0%）、「情報がない」（11.0%）「お金がない」（9.5%）となっている。この活動阻害要因の順位は、昨年と比較すると「関心がない」（08年度32.1%）がやや減っているのが特徴である。例年通り、講義やアルバイトなどの時間的な制約があって、ボランティア活動に充てる時間がないと感じている学生が多いことがわかる。今年度の調査結果では、すでに半数以上の新生が入学前に活動体験をしているということであるが、「これまでの体験からいやになった」（2.1%）という回答の割合は例年とほぼ同様で、かつ低い回答であったことから、入学前のボランティア体験が主たる阻害要因にはなっていないといえる。

【図7】 ボランティア活動に参加したいとは思わない理由



（3）関心があるボランティア活動について

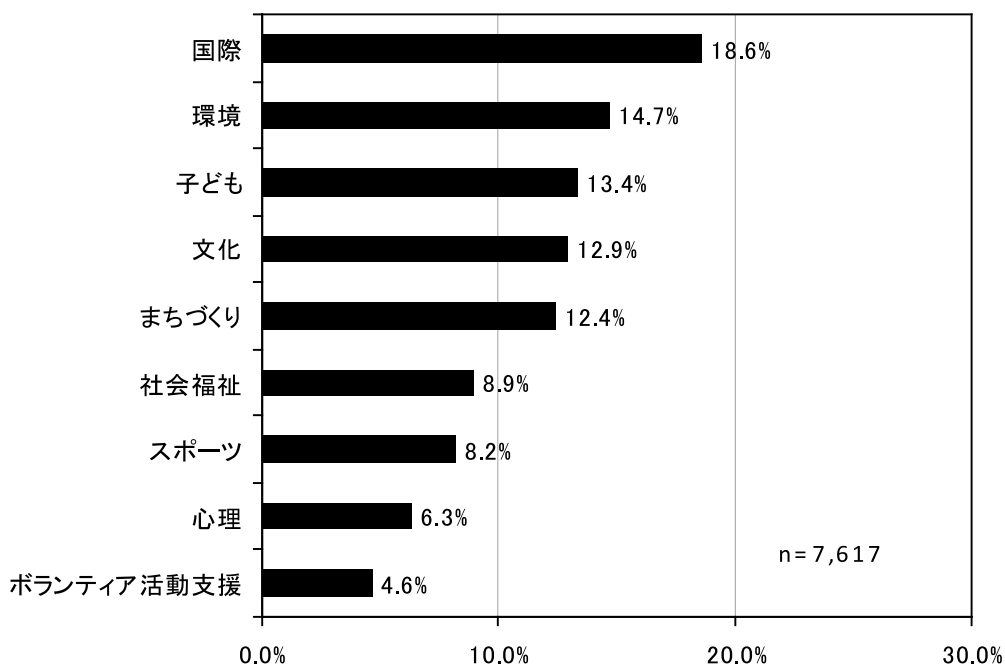
「関心があるボランティア活動分野」（複数回答）【図8】を尋ねたところ、「国際」（18.6%）が最も多く、「環境」（14.7%）、「子ども」（13.4%）、「文化」（12.9%）、「まちづくり」（12.4%）、「社会福祉」（8.9%）、「スポーツ」（8.2%）「心理」（6.3%）、「ボランティア活動支援」（4.6%）の順となっている。この順位、割合については、2008年度とほぼ同様の結果であるが、2007年度に「環境」が第2位に浮上し、08年度、今年度とも高い希望結果であったことから、「環境」ボランティア活動への関心の高まりが定着してきたことが伺える。

それぞれの領域のさらに関心のある活動について、分野ごとの希望者にさらに尋ねた。以下【図9】～【図11】は希望の高かった「国際」「環境」「子ども」領域の具体的な活動内容を示したものである。

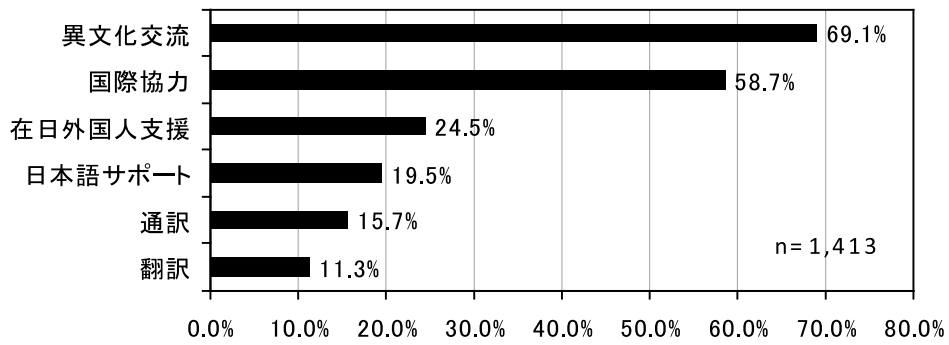
これをみると、「国際」領域では、「異文化交流」「国際協力」活動を、いずれも半数以上が希望しており、関心の高さが伺えた。また、「環境」領域では、「ゴミ・リサイクル」への関心が高く、ついで「動物保護」「森林保護」がいずれも3割を超えている。「子ども」領域では、「保育園・赤ちゃん」が約6割、ついで「放課後活動」5割と希望が多い。これら人気のある3領域の具体的な活動分野希望は、昨年、一昨年度とほとんど変化がみられず、固定した希望分野となっている。

その他の領域についてみると、「文化」領域では、「音楽」(65.0%)、「映画」(40.7%)が高く、「美術館・博物館」(28.5%)、「食」(22.3%)、「歴史」(21.7%)の順で、「科学」(3.7%)が低い。これは理科系の学科が本学では存在しないことが大きいと考えられる。「まちづくり」領域では、「祭り・イベント」(84.3%)と希望が突出しており、「地域おこし」(17.7%)、「災害」(12.5%)、「子育て支援」(11.3%)、街並み保全(6.3%)となっている。「社会福祉」領域では、「障がい児・者支援」(52.4%)、「高齢者支援」(48.2%)、「病院ボランティア」(40.4%)の関心が高く、「路上生活者支援」(13.4%)、「自助グループ支援」(8.1%)という結果であった。「スポーツ」領域では、「スポーツ指導」(50.2%)、「スポーツサポート」(49.3%)、「大会運営」(41.6%)であった。「心理」領域は、「不登校児童・生徒支援」(69.0%)「メンタルフレンド」(54.8%)であった。「ボランティア活動支援」では、「企画・広報」(57.4%)が人気が高く、ついで「事務補助」(28.1%)、「人材育成」(15.1%)、「ボランティアコーディネート」(13.1%)、ホームページ管理(14.5%)、「資金調達」(10.2%)、「政策提言」(8.0%)となった。こういった領域ごとの細部の活動希望分野についても、この数年の傾向に大きな変化はみられない。

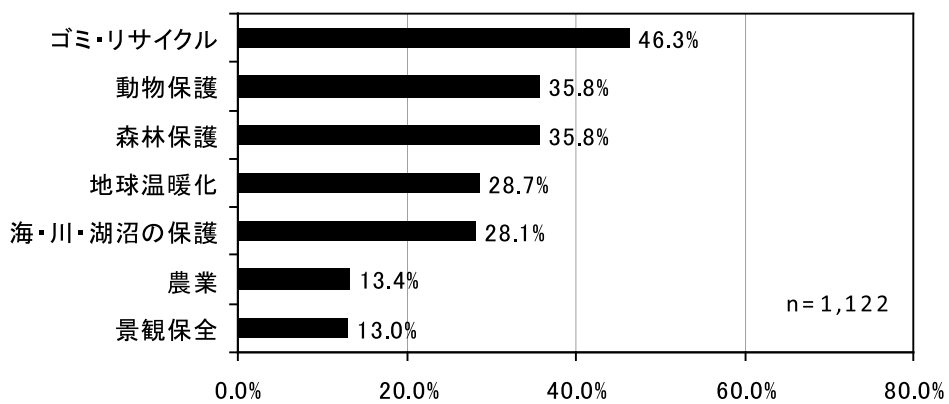
【図8】 どのようなボランティア活動に関心がありますか？



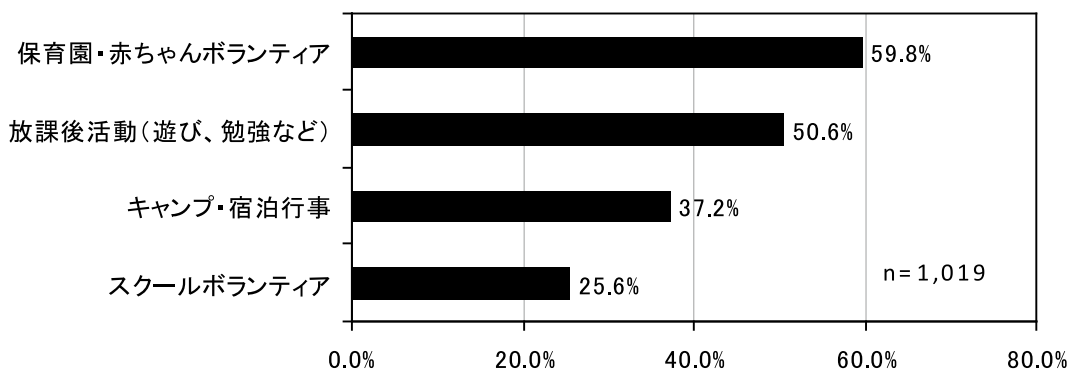
【図9】 国際の希望分野（希望者に複数回答）



【図 10】「環境」の希望分野



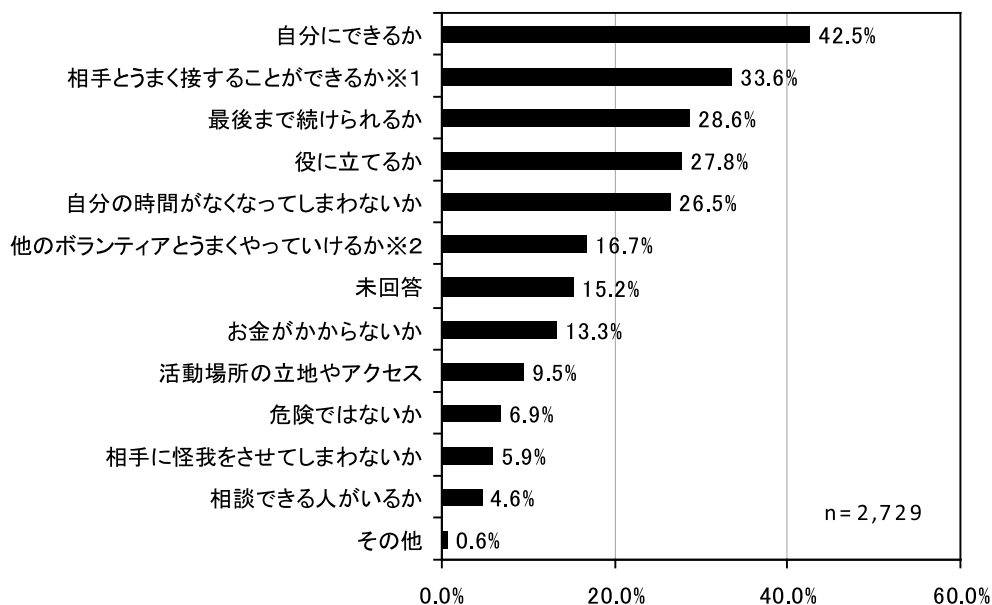
【図 11】「子ども」の希望分野



(4) ボランティア活動に対する懸念

「ボランティア活動を始めようとするとき、主に心配なことは何ですか」(複数回答)【図 12】では、「自分にできるか」(42.5%)が最も高く、ついで「相手とうまく接することができるか」(33.6%)、「最後まで続けられるか」(28.6%)、「役に立てるか」(27.8%)、「自分の時間がなくなってしまうか」(26.5%)の順で比較的高い割合を示している。この順位や割合もほぼ例年と同様である。

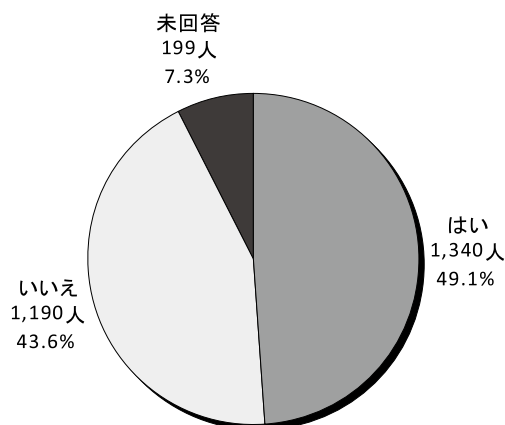
【図 12】 ボランティア活動を始めようとするときの懸念



(5) ボランティアセンターの認知度

最後に「明治学院大学にはボランティアセンターがあることを知っていましたか」【図 13】に関しては、「はい」と回答したのは 49.1%、「いいえ」が 43.6%。「未回答」7.3%という結果となった。「はい」という回答をした新入生の割合の変化をみると、2005 年度 41.6%、2006 年度 42.3%、2007 年度 68.0% 2008 年度 47.4%となっており、2007 年度に突出して認知度があがったが、昨年度、今年度と、ほぼ半数程度の新入生が認知しているという割合で落ち着いてきている。受験生に対するボランティアセンター情報はこのところ特に強化はしていないので、半数が認知しているというのは比較的高い認知度であるともいえる。

【図 13】 明治学院大学にはボランティアセンターがあることを知っているか？



3. 調査結果に対する考察

以上、今年度の調査結果から明らかになった点について考察を加えたい。

今年度の調査結果から、2009年度生の半数以上が入学前にボランティア活動経験を有していることが明らかとなっている。また大学時代にボランティア活動に参加希望する学生は、全体の6割を超えており、これはこの数年間ほぼ同率となっている。学科別では、今年度はもっとも高い志向性を示したのが国際学部であった。これまで顕著に高い希望率を示してきた社会福祉学科とともに8割を超える学生が、ボランティア活動への参加を希望している。全学科13学科中、11学科が半数を超える新入生が入学後のボランティア活動を希望するという結果となり、これは所属学科によらず、全体的に学生のボランティア活動への関心への高まりが定着してきたことを示しているといえる。ただし、法律学科44.8%、経営学科33.5%の2学科は昨年よりやや低い割合となっており、こういった比較的関心が薄い層がいる学科の学生へのボランティア活動の意図的な働きかけも必要かと思われる。

また大学時代のボランティア活動への参加希望は、女子学生が7割以上と高いのと比較すると、男子学生では5割弱となっており、参加意欲の高い学科は女子学生が多く、低い学科は男子学生が多いことも学科別結果に影響していると思われる。さらに、希望する活動分野などを性別割合でみると、スポーツ指導、環境（特に森林保護、海・川・湖沼の保護）、歴史、地域おこしといった活動分野で、男子学生の希望割合の高いことが示されている。センターではこの数年、白金、横浜両キャンパス近隣地域の方々と清掃活動などの環境保全や、区民市や祭りを通しての地域おこし活動をプロジェクトとして実施している。これらの活動と男子学生の志向する活動分野はほぼ一致することから、入学時の無関心層を含めて、センターの実施しているプロジェクトなどの情報提供の工夫や、活動勧誘への仕掛けがあれば、入学後の学生のボランティア活動の裾野が広がっていくことも考えられる。

またボランティア活動をする際に心配なことでは、例年通り4割の学生が「自分にできるか」を心配し、また「相手とうまく接することができるか」といった点を上げている。これらの点については、窓口でのコーディネーターなどのセンタースタッフのアドバイスや支援も重要となるが、実際に学生スタッフなどによる具体的なボランティア活動のオリエンテーションなどによって、「自分にもできる」「やってみようか」といった学生のボランティア活動の呼び水的な効果をもたらす可能性が高い。その意味で、学生スタッフやプロジェクト参加学生などによる新たな新入生の勧誘活動の工夫を期待したい。

2001年度から開始された新入生に対するセンターのアンケートもすでに9年以上の蓄積をもつ。今後は新入生が、実際に学生生活を経て、ボランティア活動の実績や志向性がどう変化したのかについての在校生や卒業生へのアンケートもセンターとして企画する必要があるだろう。

(茨木)